



KOUHOKU INFO

こうほく INFO Vol.4

2021年1月発行

こうほく INFO は、グループ姉妹園の様子や学園の取り組みなどを紹介する学園だよりです。毎奇数月に発行しております。ぜひご覧ください。

これからの幼児教育

社会はグローバル化や情報化、少子化など、日々目まぐるしく変化し続けています。未来の予測が難しい中、将来の子どもたちには、社会の変化を受け止め、感性を働かせて対応しながら、社会や人生をより豊かなものにしていくことが期待されています。これを受け、2020年の教育改革では、これまで知識や技能を身に着けることが主だった教育が、そこから発展して、身に着けた技術や知能を活用できる力や自ら考え行動し解決する力など、生きていくために必要な一人ひとりの資質・能力を伸ばすための教育内容へと改訂されました。小学校では、教員から一方的に受ける授業〈受動的な学び〉から、生徒が主体的・能動的に参加する授業・学習〈アクティブラーニング〉になりました。

2020年
教育改革

〈育てるべき資質・能力:3つの柱〉

- ・実際の社会や生活で活かせる「知識・技能」
- ・状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ・学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性等」



幌北学園では、子どもたちが社会の中で生き抜くために必要な「力」を育むには、〈主体性〉が大切だと考え保育を行ってまいりましたが、この度の教育改革は、まさに学園が目指している教育・保育に繋がるものでした。

主体性とは、「何が必要かを自分で考えながら、自分の意志で決定する性質」のこと。先生から教わるのではなく、あそびや体験を通して、子どもたち自身が「気づく、考える」経験から育まれていくと言われています。

園では、食育活動やコーナーあそびなど日々の保育活動や環境、職員からの声掛けや関わりなども、主体性を育み伸ばすことを目的に計画し取り組んでいます。子どもたちが自ら考えて行動する体験をたくさんすることで、自信や感性を育む豊かな経験となり、またそこから「失敗を恐れず挑戦する力」「困難を乗り越える力」「解決する方法を見つけ出す力」「やり抜く力」が自然に身についていきます。

海外ですでに幼児期教育が重要視されていて、いろいろな国が主体性や個々の力を伸ばす教育・保育に注力しています。幌北学園もオーストラリアの姉妹園運営をとおして、海外の優れた幼児教育を取り入れながら保育を行っています。今後も社会の変化に柔軟に対応しながら、個性を認め一人ひとりの生きる力を育み伸ばすために、より良い保育を目指していきます。

子どもに「やらせる」のではなく、子どもが「自らする」体験を増やすことが大切です

こんな経験はありますか？

例えば・・・
先回りして答えを教えてしまう
自分の考えを押し付けてしまう



「どうしたいの?」「何する?」の問いに、お子さんからからすぐに答えが出ないことも多いのでは?

困っていい場合は「〇〇か△△、どっちがいい?」と、違う角度に言い換えてみてはいかがでしょうか?(但しどちらを選んでもOKの選択肢)。自分で考える練習を積み重ねることがポイントです。

「どう考えたの?」などの過程を聞いてほめるのも◎。例えば大人にとっては理解しがたい考えや行動だったとしても、そこにはお子さんなりの理由があるかもしれません。お子さんの個性がわかる瞬間かも!結果よりも自分で考えてそれを伝える経験がとても大切です。「受け入れてもらえる」「聞いてもらえる」ことで、自信や自己肯定感が育まれ、主体性を引き出していきます。

危険な行動は止める必要がありますが、そうでなければ、見守り一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか?

編集後記 こうほく INFO Vol.4はいかがでしたか?今年度のこうほく INFO では、学園の取り組みのほか、海外姉妹園や海外の保育の情報などについてもご紹介していきますので、ぜひご覧ください。次回は3月発行予定です。お楽しみに!